

『 神に喜ばれる教会 』

私たちはイエスを通して、賛美のいけにえ、御名をたたえる唇の果実を、絶えず神にささげようではありませんか。善を行うことと、分かち合うことを忘れてはいけません。そのようないけにえを、神は喜ばれるのです。

ヘブル人への手紙 13章 15～16節

主の年2021年、明けましておめでとうございます。今年、いのちの泉聖書教会は上記の御言葉を年間聖句に『神に喜ばれる教会』として歩みたいと示されております。神に喜ばれる教会とは「献げる教会」であります。使徒の働き2:43-47に記されている初代教会の様子は大変魅力的です。それは献げる者たちの様子です。当時、イエス様を信じた人々は皆一つになって一切の物を共有し、財産や所有物を売って必要に応じて分配していました。富む者持つ者がそうでない者のために献げたのです。救いの喜びも一切の持ち物も、心と物を一つにして分かち合いながら礼拝と聖餐、食事を共にしました。信仰によってお互いを愛して助け合う初代教会の様子は町中の人々から好意を持たれました。そして主は毎日救われる人々を仲間に加えてくださったのです。教会とは献げる者たちの群れ、共同体でありました。現代において私たちの教会はどのように愛を実践し献げる教会となり得るのでしょうか。

ヘブル書を通して著者は、旧約聖書のモーセ五書特にレビ記に精通しており、祭司といけにえの両方においてイエス・キリストが勝っていることを語っています。祭司といけにえは献げ物の象徴です。イスラエルの民は旧約規定に従い、祭壇で幾つものいけにえを神に献げて来ました。祭司はそれを司ります。キリスト者、クリスチャンには二つの祭壇があると言えます。一つは罪のなだめの供え物を献げる祭壇です。私たちの罪の赦しのためのいけにえは十字架でほふられた小羊イエス・キリストです。そしてイエス様ご自身がその大祭司でありました。すなわち私たちの救いのためのいけにえと祭司の務めは、神様からの一方的な恵み、愛によってイエス様によって全うされているのです。それにより私たちの罪は赦され、主の愛が私たちのうちに注がれているのです。では、キリストの愛に満ちる私たちキリスト者にはもう一つ祭壇があります。私たちの内から満ち溢れるその主の愛を献げる祭壇です。今年の年間聖句は神に喜ばれる献げ物について具体的に三つの事柄を教えています。

◆ 礼拝を献げる教会

【15節 私たちはイエスを通して、賛美のいけにえ、御名をたたえる唇の果実を、絶えず神にささげようではありませんか。】キリストの愛に満ち溢れる私たちが献げるいけにえの第一番目は「礼拝」です。“賛美のいけにえ、御名をたたえる唇の果実”です。それは賛美歌だけに限るものではありません。私たちの祈りも信仰告白も、私たちの内側から唇を通して現される神への賛美すべてです。そして神への賛美を皆が同じ信仰を持って献げることが出来る場が「礼拝」であります。私たちの罪の赦しの為にイエス・キリストは一度だけ祭壇に上ってくださいました。その一度で十分でありました。信じる私たちは救い主イエス様を通して愛に満ち溢れた賛美、礼拝を絶えず献げるのです。神は御子イエス・キリストの御名を通して献げられる賛美、礼拝を喜んで受け取ってくださいと教えられています。礼拝は私たちが御言葉の恵みを受けるといふ大きな一面を持っています。それ故に受身の礼拝になりがちです。元来、旧約における礼拝とは幕屋と祭壇において祭司によっていけにえが献げられ執り行われました。献げることが本質なのです。十字架を経て今やイエス様が大祭司であり、私たちキリスト者もまた祭司であるのです。祭壇の上に賛美のいけにえ、主の名をたたえる唇の果実を献げる思いで、絶えず礼拝を献げるのです。2021年も、皆で毎週欠かすこと

なく絶えずキリストの愛に溢れて献げる礼拝を求めて参りましょう。今年も先ず礼拝を中心に教会の営みが進められてゆくことが出来れば幸いです。

◆ 愛を献げる教会

キリストの愛に満ち溢れる私たちが献げるいけにえの第二番目は「愛の実践」です。【16節 善を行うことと、分かち合うことを忘れてはいけません。そのようないけにえを、神は喜ばれるのです。】この“善を行うこと”とは愛の実践であります。ヘブル書は私たちがキリストに倣って愛を実践するとき、その愛の実践こそが神に献げるいけにえであると教えています。それは罪の赦しのためではありません。既にイエス様がいけにえとなってくれました。その神様から受けた愛が私たちの内で満ち溢れるかのごとく私たち教会は喜んで愛を実践するのです。初代教会は貧しき者、持っていない者への愛の実践が、町中の人々に好意を持たれました。愛の実践を通して神の愛が伝わったのです。キリストのかおりが私たちから放たれるのです。【私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。(Ⅱコリント2:15)】具体的な愛の実践は皆さんと語り合いながら進めて参りたいと願っておりますが、2021年に取り組みたいと示されていることが御座います。一つは弱さを覚える方々への愛の実践です。弱さを覚える方々に寄り添う愛の実践に取り組みましょう。一つは教会の温かさが伝わるプログラムの計画と実施です。新型コロナウイルス感染症の動向によりますが、例えば家庭集会、そして教会で地域の人々をもてなすプログラムを通してキリストのかおりを放つことが出来れば幸いです。教会の温かさが伝わる集会を意識できればと願います。もう一つは既に教団内の献金は皆で祈り心を持って献げておりますが、対外的な諸団体への献金を通して愛を実践したいと願います。未だ経済的に自立できていない私たちでは御座いますが、今から献げる恵みと祝福を更に味わいたいと願って止みません。2021年は善を行うこと、愛の実践を神に献げて参りましょう。

◆ 祈りを献げる教会

キリストの愛に満ち溢れる私たちが献げるいけにえの第三番目は「祈りによる分かち合い」です。【16節 善を行うことと、分かち合うことを忘れてはいけません。そのようないけにえを神は喜ばれるのです。】“分かち合うこと”これは教会において大変重要なキーワードです。元々のギリシャ語<コイノニア>ですが、本来「交わり、共有」という意味を持つ言葉です。物に限定するのではなく一切のものを“分かち合う”のです。教会では様々な方法で分かち合いをすることが出来ましょう。私たちが一緒にいるときもそれぞれの場所にいるときも、同じ信仰に立って分かち合うことが出来るのは「祈り」ではないでしょうか。祈り会では教会のメンバーの為に出席者でとりなしの祈りをしております。もちろん皆様がそれぞれの場所で教会の仲間を覚えて祈ってきたことでしょう。今年お互いの為に祈りを分かち合うことを更に具体的に形にしたいと示されております。メンバー全員の祈りのリクエストが集められた「祈りのノート」を作成したいと示されております。継続的に祈っていただきたいこと、家族や友人の救い、病いの癒し、皆さんの祈りのリクエストを一つにまとめて祈りによる分かち合いを実践したいと願います。昨年は毎朝の祈りに関して時間を共有しましたが、今年はお互いの祈りのリクエストを具体的に共有したいと願います。2021年は、お互いのための祈りを神に献げて参りましょう。

◆ 最後に

礼拝、愛の実践、祈りを分かち合ういけにえを神様は喜ばれると御言葉は教えています。私たちは『神に喜ばれる教会』としてこの三つを献げることにチャレンジして参りましょう。私たちの罪の赦しのためにいけにえとなってくださったイエス様の愛が私たちの内から溢れ流れるように献げることが出来るのです。御子イエス様を私たちに献げてくださった神様が私たちを整えて献げる者へと成長させてくださるのです。【永遠の契約の血による羊の大牧

者、私たちの主イエスを、死者の中から導き出された平和の神が、あらゆる良いものをもって、あなたがたを整え、みこころを行わせてくださいますように。また、御前でみこころにかなうことを、イエス・キリストを通して、私たちのうちに行ってくださいますように。栄光が世々限りなくイエス・キリストにありますように。アーメン。】（ヘブル13:20-21）